

指導と評価の年間計画・評価規準の作成について

7 芸術 音楽

<目次>

- | | | |
|-----|----------------------------------|-------|
| I | 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と題材計画」の作成の手引き | P 1～3 |
| II | 「指導と評価の年間計画」(芸術 音楽 I) <例> | P 4 |
| III | 「評価規準と題材計画」(芸術 音楽 I) <例> | P 5～7 |
| IV | 「学習指導案」(芸術 音楽 I) <例> | P 8～9 |

I 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と題材計画」の作成の手引き

1 「指導と評価の年間計画」について

これは、次の2の「評価規準と題材計画」の全題材について、その概要を記述したものである。生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まっていたが、この「指導と評価の年間計画」では、授業ごとの主な学習活動と評価規準、指導内容と音楽を形づくっている要素も含めて記述する。

2 「評価規準と題材計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と題材計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「題材ごとの指導と評価の計画」である。次の内容構成で作成する。

- 科目全体の「教科目標」「評価の観点及びその趣旨」を示す。
 - ・科目全体の目標
 - …学習指導要領に示す当該科目の目標
 - ・科目全体の評価の観点及びその趣旨
 - …「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 芸術〔音楽〕平成24年3月 国立教育政策研究所 教育課程研究センター）」参照
- 「内容のまとまりごとの評価規準」を示す。
 - ・内容のまとまりごとの指導事項
 - …学習指導要領の「内容」の(1)(2)…の指導事項を記す。
 - ・内容のまとまりごとの評価規準
 - …内容のまとまりごとに4観点別に示した評価規準を記す。「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 芸術〔音楽〕（同上）」参照
- ※「内容のまとまり」とは、学習指導要領の内容の「A 表現・歌唱」、「A 表現・器楽」、「A 表現・創作」及び「B 鑑賞」を指す。
- 題材ごとの「目標」「評価規準」を示す。
 - ・題材ごとの目標…実際の使用教科書等に基づいた授業の進度に沿って題材ごとに示した目標。学習指導要領の項目ごとのねらいをもとに記載する。
 - ・題材ごとの評価規準
 - …題材ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとまりごとの評価規準」を題材の内容に即して具体化したもの。
- 指導と評価の計画に、「◆ねらい・学習活動」と「評価規準・評価方法」を示す。
 - ・◆ねらい・学習活動…上記の「指導と評価の年間計画」及び科目全体の「目標」「評価の観点及びその趣旨」、「内容のまとまりごとの評価規準」を反映したものでなければならない。
 - ・評価規準…「目標」を具体化したものであり、目標が生徒の学習状況として実現された状況を具体的に想定して示す。
 - ・評価方法…評価方法については、各学校で各教科・科目の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達の段階に応じて、観察、演奏、ワークシート、学習カード、作品、レポートなどの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択していく。

題材ごとの指導と評価の計画<例>

【芸術科】及び科目『音楽Ⅰ』の目標

【芸術科の目標】 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ 『音楽Ⅰの目標』 ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
--

【芸術科（音楽）】の評価の観点及びその趣旨

音楽への関心・ 意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
○○○○○○○○○ ○○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○

科目『音楽Ⅰ』の評価の観点の趣旨

音楽への関心・ 意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
○○○○○○○○○ ○○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○

「A 表現・創作」の指導事項

ア イ ウ エ

「A 表現・創作」の評価規準

音楽への関心・ 意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
○○○○○○○○○ ○○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○	○○○○○○○○○ ○○○○○

「A 表現・創作」の評価規準の設定例

音楽への関心・ 意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
・○○○○○○○○○ ○○○○○	・○○○○○○○○○ ○○○○○	・○○○○○○○○○ ○○○○○	・○○○○○○○○○ ○○○○○

Ⅲ 評価規準と題材計画（芸術 音楽Ⅰ）〈例〉

1 「芸術科」及び「音楽Ⅰ」の目標

<p>【芸術科の目標】 芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。</p>
<p>【音楽Ⅰの目標】 音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。</p>

2 「芸術（音楽）」の評価の観点及びその趣旨

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために、その技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。

3 「音楽Ⅰ」の評価の観点の趣旨

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。

4 「A 表現・創作」の指導事項

<p>ア 音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けて、イメージをもって音楽をつくること。</p> <p>イ 音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもって音楽をつくること。</p> <p>ウ 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、イメージをもって変奏や編曲をすること。</p> <p>エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して音楽をつくること。</p>
--

5 「A 表現・創作」の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
音階、旋律、副次的な旋律や和音、音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成、音楽を形づくっている要素の働きの変化などに関心をもち、創作の学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けたり、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を考えたり、音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をしたりし、表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な創作の技能を身に付け、創造的に表している。

6 「A 表現・創作」の評価規準の設定例

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p>・音階（我が国や諸外国の音楽における様々な音階）、旋律（それぞれの音階が醸し出す雰囲気の違いなどを感じ取って音階を選び、その音階を基にした旋律）、副次的な旋律や和音など（つくった旋律に合わせた別の旋律や曲種に応じた音の組み合わせ方などを考えた音の重なり）に関心をもち、イメージをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>・音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成など）の働きの変化に関心をもち、イメージをもって変奏や編曲をする学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>・音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、音階の特徴を生かして旋律をつくったり、その旋律に音の組合せ方を考えて副次的な旋律や和音などを付けたりし、表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。</p> <p>・音楽を形づくっている要素（同上）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、要素の働きを変化させることによって生み出される音楽の表情や雰囲気などを感じ取り、表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し、どのように変奏や編曲をするかについて表現意図をもっている。</p>	<p>・音階や選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けるために必要な創作の技能（課題に沿った音の組合せ方、記譜の仕方など）を身に付け、創造的に表している。</p> <p>・音楽を形づくっている要素の働きを変化させて変奏や編曲をするために必要な創作の技能（同上）を身に付け、創造的に表している。</p>

- 7 題材名：わらべ歌をつかって編曲しよう
指導事項 「A 表現」(3) 創作ア、ウ、エ

8 題材の目標

言葉のアクセントと旋律との関係に興味・関心をもちて旋律をつくり、その旋律の音高やリズム、強弱、テンポを変化させて編曲する。

9 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p>①音階（民謡音階・都節音階・律音階・沖縄音階）に関心をもち、言葉のアクセントのイメージに注意して音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②旋律の音高、リズム、強弱、テンポの働きの変化に関心をもち、イメージをもって編曲をする学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>①テクスチャを知覚し、その働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、音階の特徴を生かして旋律をつくったり、その旋律の重ね方を考えたりし、表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。</p> <p>②旋律の音高、リズム、強弱、テンポを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、要素の働きを変化させることによって生み出される音楽の表情や雰囲気などを感じ取り、表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し、どのように編曲をするかについて表現意図をもっている。</p>	<p>①音階（民謡音階・都節音階・律音階・沖縄音階）を選んで旋律をつくるために必要な創作の技能（言葉のアクセントにあわせた音高の決め方）を身に付け、創造的に表している。</p> <p>②旋律の音高、リズム、強弱、テンポの働きを変化させて編曲をするために必要な創作の技能（音高の変化、旋律の繰り返し、拍子やリズムの変化、旋律の重ね方など）を身に付け、創造的に表している。</p>

10 指導と評価の計画（5時間）

時	◆ねらい ・学習活動	評価規準・評価方法
1	<p>◆「民謡音階」「都節音階」「律音階」「沖縄音階」に関心をもち、言葉のアクセントのイメージに注意して2つの音で4小節の音楽をつくる学習に主体的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の例「カラスがないて おうちにかえる」のアクセントを調べる。 ・調べたアクセントに合わせて、2つの音を使って4小節の旋律をつくる。 	<p>《音楽への関心・意欲・態度①》 音階（民謡音階・都節音階・律音階・沖縄音階）に関心をもち、言葉のアクセントのイメージに注意して音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 〈観察〉〈ワークシートⅠ〉</p>
2	<p>◆「民謡音階」「都節音階」「律音階」「沖縄音階」を選んで旋律をつくるために、言葉のアクセントをもとに音高を決め、旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたアクセントにあわせて、「民謡音階」「都節音階」「律音階」「沖縄音階」から音階を選択し、その中の3つの音を使って4小節の旋律をつくる。 ・調べたアクセントにあわせて、「民謡音階」「都節音階」「律音階」「沖縄音階」から音階を選択し、その中の4つの音を使って4小節の旋律をつくる。 	<p>《音楽表現の技能①》 音階（民謡音階・都節音階・律音階・沖縄音階）を選んで旋律をつくるために必要な創作の技能（言葉のアクセントにあわせた音高の決め方）を身に付け、創造的に表している。 〈ワークシートⅡ〉</p>

IV 学習指導案（芸術 音楽Ⅰ）〈例〉

日 時	平成〇〇年〇〇月〇〇日		指 導 者	岐阜県立〇〇高等学校 〇〇 〇〇	
指 導 ク ラ ス	1年〇組		場 所	音楽室	
題 材 名	わらべ歌をつかって編曲しよう		使用教材	簡単な歌詞を用いた、わらべ歌の創作	
指 導 事 項	「A 表現」(3) 創作 ア、ウ、エ				
題材の目標	言葉のアクセントと旋律との関係に興味・関心をもって旋律をつくり、その旋律の音高やリズム、強弱、テンポを変化させて編曲する。		本時の位置	4 / 5	
教 材 観	<p>日本の音楽にとって、言葉のアクセントと旋律は深い関係のある要素である。旋律を創作する上で、音高を決め出すために、民謡音階や都節音階、律音階、沖縄音階などの構成音から、使う音を限定することで、より簡単に旋律を創作することができる。さらに、音階の構成音に基づいて音を並べていくような機械的な活動に終わることが無いように、言葉のアクセントを生かすようにする。</p> <p>このように創作の活動の身近に感じることができるよう教材による学習を通して、音楽体験を豊かにし、創造的な表現の能力を伸ばすことはとても重要である。</p>				
生徒の実態	<p>創作は歌唱や器楽の活動と比べて、生徒にとって比較的経験の少ない活動である。したがって、生徒の興味・関心や学習状況等に応じて、指導内容の焦点を絞るなどの工夫を生かした創作の活動を行うとともに、創作に関する理論や技法の学習を先行させ過ぎたり、曲を完成させることのみをねらいにしたりすることなく、創作する楽しさや喜びを味わうことができるように配慮したい。</p> <p>その上で、生徒が自由に音を出しながら音のつながり方などを試す中で、音楽を形づくっている要素の働きに気付き、それらが生み出す雰囲気などを感じ取り、創作する意欲が一層高まっていくように工夫する。</p>				
本時のねらい	旋律の音高やリズム、強弱やテンポの働きを変化させて編曲をする。				
本 時 の 評 価 規 準 と 評 価 方 法	音楽への 関心・意欲・ 態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の技能		鑑賞の能力
			<p>②旋律の音高、リズム、強弱、テンポの働きを変化させて編曲をするために必要な創作の技能（音高の変化、旋律の繰り返し、拍子やリズムの変化、旋律の重ね方など）を身に付け、創造的に表している。</p> <p>〈観察〉〈ワークシート〉</p>		

本時の展開		
時	学習活動	指導・援助
導入	①教師がつくった簡単なわらべ歌の旋律を使って、音高を変えたり、拍子やリズムを変えたりすることで、雰囲気が変わることを紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 紹介する旋律は、生徒と同じ環境（4小節、全て四分音符で、民謡音階、都節音階、律音階、沖縄音階のいずれかで創作する）でつくったものを提示する。
展開	<p>②前時までに作成した4小節の旋律を歌い、音高を変化させることで、感じ方の違いを確かめる。</p> <p><例></p> <ul style="list-style-type: none"> 臨時的に半音上げたり半音下げたりすることによる感じ方の違いを確かめる。 一部の音を変更することで、旋律の雰囲気が変わることを確かめる。 <p>③一定の音形の旋律を繰り返して、主旋律に重ねる。</p> <p><例></p> <ul style="list-style-type: none"> ラソラ、シソラ、ミソラ、レドラ・・・のような、わらべ歌の雰囲気に合う簡単な音形を主旋律にかさねることで、わらべ歌の雰囲気を醸し出せることを確かめる。 <p>※②③の活動の中で、ペアで聴き合う場を設定したり、追究方法や表現のよさを全体に紹介したりする場を設定する。</p> <p>④音高の変化をつけたり、一定の音形の旋律を繰り返して副旋律に重ねたりしてつくった旋律を、小グループ内で発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> リコーダー、鍵盤ハーモニカ、キーボード等、音高を確認できる環境を設定しておく。 どのように旋律に変化をつけているのかをワークシート（楽譜）で確かめるとともに、変化によってどのような印象をもっているかを言葉による表現で引き出すようにする。 (表現意図を聞く→作品の工夫を確認する→音で確かめる→自己評価を促す→表現に対する価値付けや感じ方に対する価値付けをする→さらに工夫するとよい視点を示す) ワークシートには、②③の活動で、複数の旋律を記譜できるよう、五線譜を複数段用意する。 記譜の仕方について、個別に対応する。
まとめ	⑤生徒の作品の中から、効果的に音高を変化させた作品と、効果的に旋律を重ねた作品を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の中で、生徒一人一人の作品を見届け、その変化の工夫のよさを紹介する。